

気候資金101: グリーンバンクとは何か？



グリーンバンクは、州やコミュニティレベルでクリーンエネルギーと省エネへの重要な資金ニーズを満たし、ギャップを埋めることで、環境に配慮したプロジェクトを個人にとっても投資家にとってもより魅力的な機会とします。

世界各地で気温が上昇し続け、最高気温が毎年更新される中、気候危機を終わらせるための緊急行動は待ったなしです。最悪の事態を防ぐためにあらゆる手段を尽くすことは私たちの責任です。

すべての人やすべてのコミュニティには、きれいな空気の中で呼吸し、有害な汚染物質の脅威とは無縁の生活を送り、健康的な食料を手に入れ、将来の豊かなクリーンエネルギー経済の一員となる権利があります。

それを実現するためには、私たちの持てるすべてを注ぎ込む必要があるでしょう。これは可能性に満ちたまたとない機会であり、大きく考え、大胆に行動するチャンスなのです。

そのパズルを完成させるうえで重要なピースの一つが資金調達です。より良く、より持続可能な気候の未来への転換を実現するには、どのように資金を確保していけばよいのでしょうか？

世界中の政府はまさにこの問題について自問し、気候危機によってすでに生じた損失と損害、そして大規模な気候変動の緩和と適応に必要な資金をどのように調達するのか議論を重ねています。

しかし、州レベル、さらにはコミュニティレベルではどうでしょうか？ 世界的な気候資金の議論は、地元のほんの数ブロック先で起きていることからあまりにもかけ離れているように感じられるかもしれません。

こうしてよく「グリーンバンク」が土俵に上がってきます。

グリーンバンクとは何か

「グリーンバンクは、クリーンエネルギーへの移行を加速させ、気候変動と闘うために革新的な資金調達を行う、ミッション主導型の機関です」と、グリーンバンク運動を率いてきた非営利組織 [Coalition for Green Capital \(CGC\)](#) は述べています。

[大体は公的・準公的な機関](#)であり、政府や政府関連のプログラムによって設立されることが最も多いのですが、独立した非営利組織として設立されることもあります。

[米国環境保護庁 \(EPA\) によると](#)、グリーンバンクが「ミッション主導型」であるというのは、「クリーンエネルギーの展開を進めることを使命としている」ことを意味しています。従来の銀行のように利益を最大化する義務はありません。

グリーンバンクは [融資や債券など](#)さまざまな金融ツールを活用して、クリーンエネルギー・プロジェクトを投資家にとってより手頃で魅力的なものにしています。

融資を行い、返済金からの収益を活用してさらなる投資を行うというグリーンバンクの仕組みは、雪玉が坂を転がりながらだんだん大きくなっていくのに似ています。

グリーンバンクは、民間投資を動員するための [効果的な手段](#)でもあります。これにより、クリーンエネルギー・プロジェクトの開発を妨げることが多い資金面の障壁を克服するのに役立ちます。

「グリーンバンクは、十分なサービスを受けていない市場セクターに焦点を当てることで、市場のギャップを対象とし、既存のクリーンエネルギー・プログラムを補完することができます。特に、十分なサービスを受けていないコミュニティにおいて、クリーンエネルギーの拡大を妨げる既存の障壁に取り組むことができます。多くのグリーンバンクは、低・中所得 (LMI) コミュニティがクリーンエネルギー・プロジェクトを利用しやすくなるようプログラムを調整しています」と [EPA は記しています](#)。

グリーンバンクの資金源

グリーンバンクの資金は、その設立形態、ミッション、構造、目標によって大きく異なりますが、ほとんどの場合、公的および民間の多様な資金源から調達されます。

「州によって異なりますが、グリーンバンクは公的資金にアクセスしたり、民間市場で資本を調達したり、公共料金に上乗せされる賦課金を通じて安定した収入を得たりすることができます」と [米国立再生可能エネルギー研究所 \(NREL\)](#) は述べています。

地方自治体や州政府は、グリーンバンクを設立し財政的に支援するために、資金を直接割り当てることができます。この政府資金は多くの場合、グリーンバンク自体を設立する法律の定めにより提供され、資金の充当を1回だけ行うこともあれば、さまざまな収入源からの継続的な支援となることもあります。

上で述べたように、場合によっては公共料金の請求額に、グリーンバンクに資金を提供するために特別に設けられた少額の賦課金が含まれることがあります。

また、グリーンバンクが利用できるさまざまな民間の資金源もあります。

慈善団体のほか環境保護を重視する非営利団体は、グリーンバンクとその取り組みの立ち上げや支援を行うために資金を提供することができます。また、実績のあるグリーンバンクは債券を発行することで、同行の環境目標を支持しつつ投資へのリターンを求める民間投資家から、資本を調達することができます。

商業銀行やその他の金融機関など民間の貸し手とパートナーシップを組むことでも、さらに初期資本が調達可能です。

そしてもちろん、グリーンバンクが設立され操業が始まれば、融資の返済金やその他の投資収益が流入し始め、その資本は新たなプロジェクトを支援するために再び利用されます。

事業が軌道に乗れば、この循環型の資本アプローチにより、グリーンバンクは初期資本が限られていてもその影響力を最大限に発揮することができます。

グリーンバンクの利点

グリーンバンクは、環境、経済、社会の様々な分野にわたってプラスの影響を与える可能性があるため、コミュニティの持続可能性とレジリエンスを高める貴重な手段となります。

限られた公的資金を活用してクリーンエネルギーや省エネ住宅など環境に配慮したプロジェクトへの民間投資を呼び込むことで、プロジェクトをより手ごろな価格で利用しやすくします。これにより、最終的には、より多くのクリーンエネルギー・プロジェクトの市場が成長します。

特に、低・中所得(LMI)コミュニティや有色人種コミュニティなど、これまで十分なサービスを受けていなかったコミュニティにとって有益となりえます。

グリーンバンクは、ミッション主導型のアプローチを採用していることから、十分なサービスを受けていないコミュニティへの投資を優先することができ、クリーンエネルギー・ソリューションへの公平なアクセスを確保し、低・中所得(LMI)世帯独特の光熱費負担率(energy burden)の問題に対処することができます。

同時に、洪水緩和策やエネルギー効率の高いインフラなどへの投資は、気温の上昇と気候変動が進行する中で私たちがすでに目にしている異常気象の影響に対し、コミュニティのレジリエンスを高めることができます。

そして当然のことながら、クリーンエネルギーに重点を置いたグリーンバンクのミッション主導型のアプローチには、環境面でも利点があります。

クリーンエネルギー・プロジェクトに資金を提供することにより、気候危機を引き起こしている化石燃料からコミュニティが脱却するのを支援します。こうした取り組みにより、短期的にも長期的にも大気と水の質が改善され、公衆衛生が向上し、進行する環境悪化に伴う医療費の削減にもつながります。

グリーンバンクの最終目標は、温室効果ガスの排出削減に尽力し、気候危機の緩和を図ることにあります。しかし一般の人にとっては、そこから得られる金銭的利益の方がさらに魅力的に映ります。

グリーンバンクは、省エネ対策や再生可能エネルギー発電への資金提供を行うことで、コミュニティの光熱費削減を支援し、個々の世帯や企業のコストを削減できます。

また、地域に新しい企業やグリーン投資を呼び込み、地域経済の活性化にも貢献できます。クリーンエネルギー分野の労働市場は成長を続けており、グリーンバンクは関連プロジェクトに投資することで、みなさんのコミュニティのような場所で多くの新規雇用の創出を支援することができます。

総合すると、グリーンバンクは、クリーンエネルギー投資を促進しコミュニティに非常に実質的かつ公平な成長をもたらす強力な手段であり、低炭素経済への移行を進めるうえで重要な役割を果たすことができるのです。

さらに詳しく

ずばり言いましょう。私たちが変化について話しているとき、それは投資の話をしています。インフラへの投資や、コミュニティへの投資。また、新技術、省エネ対策、そしてさらに多くの分野への投資です。

しかし、この投資は同時に、あらゆる社会階層、肌の色、性別、信条の人々にすばらしい利益をもたらす可能性を秘めています。

この投資には、私たち全員を一緒に引き上げる力があるのです。

そして、グリーンバンクは、それを実現するためのパズルのピースの一つに過ぎません。